

第7回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事録

日 時：令和8年3月24日(火)14:30～16:30

場 所：高知共済会館3階 大ホール「桜」

出 席：委員11名中11名が出席 ※原田アドバイザー欠席

出席委員：刈谷委員、寛藤委員、坂本委員、高岡委員、玉乃井委員、久川委員、
古谷委員、前田委員、丸委員、森委員、渡邊委員

議 事：(1) 前回(第6回)の宿題返し

- ・各委員の主な意見と事務局の回答
- ・地下駐車場における防災対策

(2) 施設計画(基本要件、機能及び諸要件、モデルプラン)

(3) 収支の見通し

(4) サウンディング再調査(中間報告)

報 告：(1) ちばさんセンター大ホールの集約化のメリット・デメリット

(2) 「新県民体育館を核としたまちづくり」ワークショップの開催

そ の 他：次年度の検討会委員について

1 開 会

<委員長挨拶>

・今年度最後の議論ということで、これまでも多様な視点で委員の皆様からは専門的な意見をいただいていた一方で、前回の検討会の中で、基本方針に社会体育の視点が出てきたり、様々なステークホルダーの皆様からの懸念も示されているところ。収支の議論が本日できるということで、毎度申し上げているところでもあるが、30年40年を見据え、財政負担のこともしっかりと考えていかなければいけない。そこは変わらず必要な議論であると思うので、本日も率直かつ建設的な意見をいただければと思う。

2 議 事

【議事(1)～(4)】

<刈谷委員>

・利用料金の設定では、「一般」は大学生も含まれるので、そこは利用シミュレーションに留意した方がいい。

<森委員>

・サウンディング再調査については6件すでに実施されたということで、今後は収支の見通しを公開しつつ実施する予定か。

⇒県) 収支の見通しは主に運営事業者にとって必要な情報。サウンディング調査は建設事業者のゼネコンへ先行して実施している。

<丸山氏（高岡委員代理）>

・基本要件に前回報告させていただいた教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮した計画という箇所について確認させていただいた。今後も継続的に話し合いの場を設けていただきたい。

<丸委員>

・資料の9ページの地下1階から1階にかけて機能及び諸条件等で、選手・関係者ゾーンの内訳が見当たらないが、ロッカールームや審判ルームの設定はあるか。

⇒県) この資料には示していない。あくまでもモデルプランであり、Bリーグなど先を見据えて諸室などを想定し、設計で具体的になってくるもの。細かく示した図面もあるが、この場で公開しているのはゾーニングとして大きなくくりを示したもの。今後設計の段階で各事業者から提案する内容にも影響してくる部分になるため、どこまでの情報を出すかという判断のもと現在の情報となっている。

・ロッカールームはアマチュアとプロでは仕様が全く異なることや最近では監督室という四畳半ぐらいの応接セットを備えたデータアナリストも作業ができるような部屋を備えているところもある。またトレーナールームには診察台が必要だし、できればアイシングの氷も現地調達できればいいが言い出したらきりが無い。あと、ボランティアマネジメントはこれからの時代必要なもので、あくまで体感値ではあるが、ボランティアの方用のロッカーがある程度揃うと、いろんなものに代替として役に立つのではないか。今後の検討材料に加えていただければありがたい。

⇒県) Bリーグの施設要件等があるのでしっかり調べ、いただいた意見を確認しながら進めていきたい。

<前田委員長>

・資料4の2ページ目であるが、収支の見通しの右下「傾向や課題対策」で、2つ目にプロスポーツの試合を土日祝日に開催しようとするすると競技大会と重複するので、プロスポーツチームの試合を平日開催または土日の夕方以降と書いているが、プロスポーツの試合のイベントや設営を考慮すると、前日や当日も終日押さえる必要があるのではないか。これはプロスポーツ以外のイベントにも共通する。

⇒県) プロスポーツになると前日から必要になると思う。ただ、一番混雑するのは開催時間中で、来場者の動線や運営が一番懸念されると思うので、例えば他県では試合開催を平日の水曜日や金曜日に開催している実績があり、19時から試合開始など来場者も仕事を終えた後に見に行きたいということで、平日の夜に開催している。土曜日翌日

が休みななので、夜開催が可能。一方で日曜日は他県の実績を見ても、夜に試合開始をしている事例がなく難しいと想定している。ただ来場から開始の時間を競技大会とずらすことによって、会場内での混雑はカバーできるのではと考えている。

・これはつまり競技大会とプロの興行を同時開催するような想定か。プロスポーツであれば、試合日はリーグのレギュレーションなどにも準拠しなければならないため、時間帯については選べない可能性が高い。

⇒県) 土日では競技大会があり、そちらは優先しつつ、それはサブアリーナで開催し、メインアリーナではプロスポーツの試合をすることを実現するためには、時間帯をずらす工夫が必要と考えている。

⇒刈谷委員) 競技スポーツでは、特にアマチュアは競技が終わってから選手自ら撤去をするので、重複開催はかなり無理があると思う。撤去の間にプロスポーツのギャラリーが入場してくると大変混雑を招く。さらにはプロスポーツの場合、サブアリーナでウォーミングアップをしようと思う。そうすると大会は不可能なので、同時開催をし稼働率を優先するのではなく、安全面を最優先して考えてほしい。

⇒県) 実際にプロスポーツの試合となると試合開始前のウォーミングアップにサブアリーナを使いたいと希望があると思う。どうしても希望日が重複した場合に、プロスポーツの試合場でウォーミングアップをしてもらうなど制限が出てくる可能性もある。旧南中高の体育館もあるが、そちらをウォーミングアップ会場にするのは現実的じゃないので、重複したときの安全性は懸念されるどころ。時間をずらしたり運用面で検討していきたい。

<玉乃井委員>

・年間利用日数のシミュレーションで、音楽コンサートが年間8公演と想定されているが、なかなかハードルが高い印象。プロスポーツも収入面が重要で平日開催は好まないと思うので、土日開催を希望するのではないか。そのため大会やイベントが重複する組み合わせは難しいと思う。

<久川委員>

・最近の傾向で土日祝日のイベントはスタート時間が早まる傾向。従来19時開演のところ2時間程度前倒して17時開演などがホールでは一般的。

・アスパルこちらのグラウンドの存続に関する要望書が提出されたという報告があった。具体的にはなかなか言いにくいとは思いますが、例えば屋上の使い方など具体的な話が出てたと思うので、「グラウンドがなくなるのではない」ということが伝わればいいのではないか。グラウンドがなくなる前提の話をよく耳にするので、そうわけではなく代替施設ができるという部分をもう少しアピールできれば、納得が得られやすいのではないか。

⇒県) アスパルこうちの6階に体育施設があるが空調がないので、今回空調の効いたサブアリーナができることにより、体育の暑熱対策になる。また、サブアリーナとアスパルこうちの間に、15m×100m程度のスペースができ、そこで草木を植えたり憩いの場のできるのではという想定がある。まだ具体的に決めているものではないが、高知市や高知市教育委員会としっかり協議しながら、引き続き説明をしていきたい。

<前田委員長>

・プロスポーツやイベント、競技大会等において最低限必ず守るべきものがあり、プロスポーツ関係に関わっていた身としては、夜間に試合開催としても朝からいろんなイベントを開催しながらいかに人を集めていくかが今のプロスポーツの中で求められることであるので、しっかり検討し方向性を示してほしい。

<森委員>

・土日にイベントが集中するのではという意見があり、スケジュールが重複した際に、旧南中高の体育館の利用権限を与えるなど、例えば単価の高いイベントはメインアリーナを使ってもらい、単価の安い方を旧南中高の体育館を使ってもらうなど、双方に収益が上がるような仕組みが実現できるのではないかと。そういう方向性のイメージはあるか。
⇒県) 旧南中高跡地のグラウンドとテニスコートは今まで県の教育委員会が所管であったが、今年度からスポーツ課に移っている。指定管理で運営していく中で、特に大規模イベントでは駐車場問題が出てくるので、早めに連絡をいただければ指定管理者と相談しグラウンドを使用する可能性が高いということで、イベント開催時は一般利用を控えてもらうなどの調整が可能。その場合駐車場利用については主催者に負担いただくことが出てくるかもしれないが、スポーツ課と指定管理者で調整していくことになる。

<古谷委員>

・本日アリーナの利用料金のシミュレーションを示していただき、これからの収益性がどのように進んでいくのかイメージができた。ベースになっているのは現在の県民体育館の基本料金であるが、現在の県民体育館は50年前の体育館。さらに備品等についても新しいわけではなく、利用される方にとっては快適であるとは言えない状況。そういったことも考慮した利用料金であると思うので、新しい県民体育館の施設ができた場合、最新の設備となり、快適に利用できるということであれば、もう少し利用金額はアップし収益に繋げることもできるのではないかと。他県の類似アリーナといっても平均値であり、これから施設の供用開始まで数年かかると思うので、少しでも上乗せをして稼ぐ体育館になってほしいという思いは一県民としての願い。

⇒県) 利用料金が多少高くなったとしても、高知県では今までになかった体験などを提供し利用料金に見合うと思ってもらえるような施設を目指していく。

<刈谷委員>

・憩いの場はモデルプランにあるか。

⇒県) 電車通り沿いのメインアリーナの正面部分を想定。また、アスパルこちらの建物とサブアリーナ建物間に少しスペースがあり、幅は15mから17mぐらいを想定しており、南北に約100mスペースがあるため、そこも憩いの場として活用することが可能。ここはグラウンドのまま残すのか、舗装をするのかは高知市や高知市教育委員会と協議していき、アスパルこちらに通う生徒がここでキャッチボールをしたり走ったり多目的に使えるスペースとしても可能。

・アスパルこちらの建物とサブアリーナ間のスペースは、観客の動線にもなる場所。そこへキッチンカーが来ると動線が詰まることになるので、もう少し整理をして安全面を最優先にしてほしい。

⇒県) おっしゃるように車と歩行者の動線をしっかり分けて安全面を確保することは重要。今のモデルプランでいくと、来場者や車を色で動線を分けており安全面を確保したいと考えている。キッチンカーをどこに置くかというのは、将来運営するであろう企業の考えがあるので、我々としても憩いの場をしっかりと確保し、設計段階で企業からの提案を受けたい。

・運営する側をお願いするのではなく、設置者がスペースをしっかりと準備するもの。スペースに余裕を持った図面を見せていただければもう少し納得がいく。プールは北側になるのか。

⇒県) 前回刈谷委員からもプールを北側に配置することで、プールの南側に共通のスペースが生まれ、いろんな用途に活用ができるのではないかという意見をいただいている。そういった意見も今後仕様に反映していく。

<渡邊委員>

・安全管理に加えてシミュレーションとしては、メインアリーナとサブアリーナしか出てきていないが、普段使いとしてプールと武道館を利用する人のことを考慮すると、なおのこと障害のある方や高齢者の動線確保が必要。プールと武道館の利用日数や利用人数のシミュレーションは出てくるのか。

・地下駐車場を想定したときに、車椅子スポーツが可能だとすると、競技用車椅子の運搬が必要になるので、エレベーターのサイズに考慮いただければ。

⇒県) 今回はメインアリーナとサブアリーナの利用日数のシミュレーション。武道館とプールについてのシミュレーションはしていない。また、地下のエレベーターを想定したときにMICE等の事業者が地下に車を停めて、業務用エレベーターで上がっていくことも想定する必要があるので、車椅子も運搬可能な広さや耐荷重のあるエレベーターを考えていかないといけない。

<寛藤委員>

・前回も述べたが新しく武道館ができた場合に、かえって使い勝手が悪くなったとか、縮小されてしまったとか、料金の件においても、新しい施設なので少々高い利用料金でも満足してもらえようとの話があったが、近年の傾向として、料金が上がると、スポーツ離れに繋がる。特に武道の場合は、競技人口減になっており現状との兼ね合いを考えていただきたい。

・車椅子利用の話題に加えて、シャワーのスペースを考慮しているのか。というのも小学生や中学生、または幼児が武道に関わっていききたいと思うような施設を望んでいる。⇒県) 利用料金に関してはこれから様々なニーズを聞きながら検討していかなければならない。また必要な諸室については各団体に聞いており可能な限り反映する。ただ新たな武道館は試合場が3面。旧南中高を使っただけのように新しく整備をしているので、現武道館にある練習場2面が、旧南中高の1階部分が供用開始すると常時柔道が2面、剣道が2面とれ、さらに多目的なフローリングが2面あるので、今の練習環境より広く使うことが可能。ただし試合場としては、今4面あるのが3面になるので、武道関係者と今後利用について協議していく。

<坂本委員>

・収支の見通しについて公共事業でよくあるのは、絶対値で示すときはその絶対値の意味を説明する。ここでは絶対値として下線で引いている試算結果から、年間1.6億円から1.9億円程度見込まれるとあるが、これが果たして何を意味するのか。例えば、妥当なのか厳しいのか感触を聞きたい。

⇒県) 現在の県民体育館と武道館の年間の指定管理代行料が予算ベースでいうと約1.4億円程度。それよりは高くなるという試算。ただ、ちばさんセンターの機能を県民体育館で集約させて運営していくと、ちばさんセンターの年間の維持管理経費が令和6年度ベースで約3000万円程度と聞いているので、それを合わせると、近い水準になる印象。

・前提条件の計算で、公共事業以外で理想的な需要と供給の話になるが、料金を設定したら弾力性が発生する。例えば高速道路を作るときに、料金設定後、社会実験として、30%オフにした場合にどれぐらいの交通量の増が見込まれるのか、料金を上げればその分だけ利用者が減算され、ある程度の均衡が見えてくる。運用を前提条件で整理したが、実際にやってみたら、実はそうじゃないこともある。運営した後に試行錯誤して最終的に決めてもいいのではないか。

・サウンディング調査で、「プロスポーツチームが設立されておらず」という枕詞の重みの印象を教えてください。

⇒J V) 民間事業者の意図として、プロスポーツチームがあると年間のホームゲーム数が自動的に算出でき、施設使用料をかければ大体の収益が見込めるので、こういう言葉

が使われている。プロスポーツチームがない場合、高知県においては県外の事業者は土地勘がない方々も多いので、既存の利用がどれだけあるのかがわからないという意味もある。そのためこちらとしては、本日お示しした収支の見通しや費用をしっかりと開示し、民間事業者が数字をイメージできるような対応を考えているところ。

・このあたりの情報を示すと、もしかしたら土地勘がない方も、意外とできるのではという方向になるのか。

⇒J V) 機運醸成を行政主体となって民間事業者に見せていかないとなかなか民間事業者はそこまで関心を寄せられないので、そういった動きはしっかりやっていく必要がある。また、プロスポーツが入ることで露出が増えるので広告掲出料やネーミングライツなど貸館以外のスタジアム・アリーナ改革で言われているようなマネタイズが期待できるため、この収支改善は1つ希望になるような部分。

・私もいろんなところで移住者に対してヒアリングをすることもあるが、知らない方に対して、現在の状況などを情報提供するとより優位な結果になると思う。

<前田委員長>

・前回私も「経営資源」というキーワードを伝えたが、この建て替えのタイミングで設備や機能、諸室などについて検討しておくことは、誘致に対する武器を備えておくということにつながり、今後プロスポーツやイベントなどをどれだけ誘致できるか、設定した数字を達成できるのかどうか、どれだけ稼ぐことができるかに大きく影響する。スポーツ関係者の利用料金にも反映できることなので、ここをどれだけこだわり検討できるかがすごく重要。BリーグやVリーグでもチームはあるがアリーナがないという課題を抱えているところが多い中で、いかに機能面についても整理し、収支を整理するかが今後の誘致に関しても非常に効いてくる。誘致やクラブ発足に関するスケジュールのイメージがあれば教えてほしい。

⇒県) プロのバスケットボールチームを県内に作るという話まで進んでいない。現実的にチームを運営していくには運営会社や出資する企業が必要であり、県だけで運営していくことは難しい。先日岡山のバレーボールチームを視察したが、350社程度の応援企業がいた。試合の当日もかなりの人数が来場していたがそれでも自分たちのチームだけでの運営は厳しいとの意見があった。県内外を含めて企業が協力的に支援していただかないと難しいと感じた。高知県としてもプロのチームがなかなかできないのはわかっている。ただこのアリーナを整備する上で誘致ができるのであれば誘致もしていきたいと思っている。現在47都道府県にプロのバスケットボールチームを作ろうという動きがあり、高知県を担当する方もこの間来県されており話をさせていただいた。引き続き情報交換をしながらまずは運営会社になるような企業を探しつつ県としても一緒にチームを支えたり作っていくように力を貸してほしいと言われている。まずはプロのチームを高知県内で試合をしていただく。プレシーズンマッチや合宿に来ていただくことで、

県内の子どもたちにプロの試合を見ていただき、ファンになって、地元からもチームを作っていこうとかそういう機運醸成を図っていくことが重要であると考えている。来年度はプロのチームやMICEの誘致部会を立ち上げようと計画している。

・本来であれば、そういった方々の意見もこの計画に反映されるべき。できる限り納得感のある情報提供の準備を引き続きしていただきたい。

【報告（1）（2）】

<森委員>

・ちばさんセンターを新県民体育館に集約することでちばさんセンター側の収入はなくなるが、一方で維持管理費などの費用はなくなるので、具体的に集約した場合の収支コストを出してみると最終的には安くなると思う。一方で新県民体育館側の方で検証している収支の見通し等のデータと連動し両方の検討会で情報が共有されるといいのではないか。

⇒産業振興センター）ちばさんセンター側の収支については、ちばさんセンター大ホールのあり方検討会で、次回またはその次の会の際に公開予定。また、現在大ホールを使用している企業団体に新県民体育館でも従来のイベントが開催可能かどうか直接聞き取り調査を実施した。それについても4月8日のちばさんセンター大ホールの検討会で説明し、大ホールの利用者がどう考えているかによっては大ホールの機能をどうしていくかという方向性を出すように考えている。

【その他（1）】

<前田委員長>

・委員の皆様と事務局には先に伝えていたが、年度末をもって私と丸副委員長に関しては、委嘱に関して辞退をさせていただく判断に至った。まずは委員の皆様には専門的な立場からいろんな意見をいただき議論をさせていただいたことに深く御礼申し上げます。また、委員長と副委員長という立場で議論を整理しまとめていくことに関しては、役割を果たしきれなかったことに対し深くお詫び申し上げます。この判断に至った経緯を説明すると、昨年度のあり方検討会から議論に参加し、当初の本事業は人口減少や若者の流出など高知県の抱える問題もセットにしながらか議論がスタートしたと受けとめている。その時に5,000席という数字が提示され、それに向かってどのようなまちづくりをしていけばいいのか、価値をどう作っていくのかという議論からスタートした。まちづくりにおいて現在の基本計画の理念案にも示されているが、一方で検討の過程においていろんな機能の集約が入り、少し前からは社会体育施設がメインという説明があり、コンセプトが変化しそれによって議論がかなり固定化していると感じている。一連の経緯に関

しては、検討会の中でも私から発言させていただいている通り。社会体育の機能は非常に重要なことに間違いないが、私達の専門であるスポーツマネジメント、つまりスポーツを通じていかにこの地域を活性化していくかという考え方に対し、社会体育はコストに引っ張られる性質があり、社会体育といえ利用者が限定される性質があることには違いないと思うので、そこにどうやって価値を生み出していくのが重要である。社会体育と興行を両立させることは今の計画ではかなり難しいのではないかと議論を進めていても感じており、整理をするにしてもまだまだ検討が必要な段階にある。そのため30年40年見据えた施設として、収支の見通しは再検証していく必要があるのではないかと。この設計前の段階で「なぜ、今、この内容で」整備を進める必要があるのかを再検討する必要があるのではないかと。この検討の中で、委員の皆様や近隣施設の方々、ステークホルダーの方々から示された懸念に対するデータや根拠を持って説明することのプロセスはかなりまだ不十分。将来的な財政負担が積みまとう議論であるので、しっかり説明しないまま一定の前提のもとで進んでいくことには非常に危惧している。これまでも説明をしたが、ここは冷静に立ち止まり議論するタイミングではないかと考えている。先ほど事務局から、私たち委員長・副委員長の考えのもとという表現があったが、スポーツマネジメントという分野を専門にして私たちからすると、時折スポーツ庁の資料を見て話をしてきたが、スポーツを起点としながらも産業やいろんなものを巻き込んで、いかに日常的に人が集まる仕組みを作っていくかを目指さなければいけない。ただ、現在の議論を対比させると、変化した前提に対して調整に向かっていくような議論が展開されており、私たちの専門的な知見を使って貢献することが難しいという判断に至ったところ。この点に関して、現状の枠組みの中で引き続き委員として続けてほしいという話もあったが、形式的に関わっていくことの方が逆に責任がないのではないかと感じたことについてはご理解をいただけたら幸いである。最後に、この社会体育と興行のイベントが設計前のこの段階でスケジュールがバッティングしていたり、プロスポーツがなくてもこの計画を進めるのか、もしくは経済的なことも含め価値の創出に向けて手を尽くしてから進めるのかで将来の結果はかなり違ってくる。外から見た時に、現在の目的に対し、この計画は何のためにやるのかという問いに対して、手段の部分がバラバラになってしまっているのではないかと懸念もある。そういったところも含めて検討すべきというメッセージも込めて、私たちはこのタイミングで退任をさせていただくという判断に至った。結果として途中であることに関して心苦しいところでもあり、本検討会でも積み重ねてきた議論は非常に貴重だと思うので、ぜひとも次の会においても、とにかく理念や目的に対してどういう手段をとり、どういった計画にしていくのかという議論を進めていただきたい。

<丸委員>

- ・本来であれば、対面で出席し皆様に挨拶をするところオンライン参加になり申し訳な

い。今回、次年度以降に退任をする経緯は先ほど前田委員長が話をした内容のとおり。完成まで見届ける思いで始めたが、皆様の期待にこたえられず、貢献することが叶わず、大変申しわけない。ただ、次年度以降の検討会に関しては、ぜひ高知県民にとって非常に有益な場になること、そして高知県全体のまちづくりのにぎわいの拠点になることを心より祈っている。

<事務局>

・競技大会や興行のイベントをどういうふうに工夫し安全性を確保していくかという課題は今後も検討を深めたい。また利用料金についても他県の事例も参考にしながら協議を進めていきたい。さらにはプロスポーツチームが呼べるような施設の仕様を盛り込むよう引き続き検討を深めていく。30年後の財政負担への議論が必要という意見もいただいたので、収支についても見直すべきところがあれば見直していく。それから来年度に向けてこの検討会は継続していくので、多くの委員の皆様にも内諾をいただいているところ。前田委員長、丸副委員長が辞退をされるということで、お2人にはこれまで様々な角度から意見をいただいたことにこの場を借りて改めて御礼を申し上げます。ただ、スポーツマネジメントの部分すべてをやめるということではない。社会体育施設に加えて、アリーナ機能を融合した複合施設を整備していくことで前回も確認をいただいたところ。プロの誘致については来年度専門部会を立ち上げしっかりと対応していきたい。新しい価値を生み出す上でプロスポーツの県内誕生は必要だと考えており、引き続きスポーツマネジメントの立場から機会があればアドバイスをいただきたい。

3 閉会